

(別紙4(2))

事業所名 グループホームジョイア矢作

## 目標達成計画

作成日: 令和2年8月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	ご利用者様一人一人にケアをしているが、グループホームらしく、個別ケアをもっと掘り下げたい。	ご利用者様一人一人に合った個別ケアの再確認をする。	アセスメントの再確認を再度行い、個別ケアを見直す。その後、定期的な見直しを行い。ご利用者様に無理のない、潤った生活を支援させて頂く	12ヶ月
2	14	他ホームとの関わりを持ち、それぞれの地域連携を行う	ジョイア広幡、ジョイア永覚との交流を深める	・コロナ禍次第ではあるが、他ホームの足湯へつかりに行く、他ホームへご利用者様がイベントに参加するなど、ホームごとのつながりを作ることでより活発的なホームにする。	12ヶ月
3	19	ご家族様とのより綿密なかかわり方を作る	手紙や面会時以外に、ご家族様にホームでのご様子をお伝えする方法を確保する。	写真の送付や、面会時のご挨拶、様々な方面からのアプローチを検討する。他ホームの事例を検討する。	12ヶ月
4	33	看取りの向き合い方、知識について勉強が必要。ホーム内で看取り支援を行ったが、当時の職員がほとんどいなくなってしまう。改めて、看取りの勉強、向き合い方について学ぶ必要がある	看取り支援を行う事になった時も、適切な対応が出来る。より良い最期について、職員一人ひとりが考えられるようにする。	勉強会の実施、普段より見取りとは何なのか、よりよい最期とは何かについて学ぶ機会を作る。	13ヶ月
5	29	地域資源の活用をより増やしていく。	新たなボランティア、慰問を増やしていく。	やはぎかんの活用、また、リブラなどの地域の交流スペースを活用し、新しいホームの交流を行っていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。